

1. 基本情報

- (1) 国名：ウガンダ共和国（以下、「ウガンダ」という。）
- (2) プロジェクトサイト：ソロティ県及びジンジャ県
- (3) 案件名：地域中核病院医療機材整備計画（The Project for Improvement of Medical Equipment for Regional Referral Hospitals）
- (4) 計画の要約：本計画は、ウガンダ東部のソロティ地域中核病院及びジンジャ地域中核病院において医療機材を整備することにより、両病院の医療体制の強化を図り、もって両地域の保健医療サービスの改善及び両地域住民の生活環境の改善に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ウガンダは、不安定な国が多い東アフリカにおける安定国であり、東アフリカ及び周辺地域の安定と発展を推進する上で重要な役割を担っている。我が国は、主要ドナー国の一つとして 1966 年から同国への ODA 事業を実施しており、同国はこうした我が国の協力を評価し、各種国際選挙をはじめとする国際場裡において、我が国を基本的に支持する友好国であることから、二国間関係の維持・強化は極めて重要である。

ウガンダでは、国が管轄する国立 5 病院及び地域中核 16 病院、その下に各県が管轄する県病院及びヘルスセンターを設置し、簡易な医療施設での診療や治療が難しい重症患者をより高度な医療設備及び体制を有する病院へ搬送するリファラル体制を構築して保健・医療システム強化を進めている。我が国は、同国内の各地方で必要な医療を適切に受けられることができるリファラル体制の整備が重要との認識のもと、長年に亘り、無償資金協力と技術協力を活用して同国の全 4 地域（中央、東部、西部及び北部）において地域の核となる医療施設整備や人材育成を一貫して継続しており、本計画の実施は二国間関係の更なる強化に有効である。また、我が国は、第 7 回アフリカ開発会議（TICAD7）において、日本の取組として「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）拡大とアフリカ健康構想の推進」を表明し、300 万人の基礎医療アクセスや衛生環境の改善を促進していることから、本計画は同取組を具体化するものであり、実施の意義は高い。

- (2) 当該国における保健セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

ウガンダ政府は、「第三次国家保健政策」（2020/21–2024/25）及び「保健セクター質改善枠組戦略計画」（2020/21–2024/25）において、UHC を促進するための保健インフラ設備の改善を優先課題に掲げ、リファラル体制の構築を通じた保健医療システムの強化を進めている。しかし、同国では、マラリア、HIV/AIDS 等の感染症疾患や新生児障害等が死因の上位を占めているほか、妊産婦死亡率は出生 10 万対 375（2017 年）と高く、SDGs が定める目標値（出生 10 万対 70）の達成は依然として厳しい。また、

近年では、脳卒中や心疾患等の非感染症疾患が増加しており、これらの患者への適切な診断や医療提供体制の構築が課題となっている。

本計画の対象地域である同国東部地域は、全国の4地域のうち最多の32県が所在し中央地域に次いで人口が多いが（約900万人、全人口の26%、2014年国勢調査）、貧困率は約36%と最も高い（全国平均21%、ウガンダ統計局、2019年）。本計画は東部地域にある3カ所の地域中核病院のうち、医療機材の老朽化が著しく、緊急性の高いソロティ及びジンジャの地域中核病院において医療機材の整備を行うものである。ソロティ地域中核病院は、管轄内の県病院やヘルスセンターから多くの産科患者を受け入れているため、病床使用率が91%と特に高い。一方、画像診断機材等が耐用年数を超えて使用されて老朽化が著しい他、酸素濃縮器や滅菌装置等の基本的な医療機材の不足により、増加する患者の受入要請に十分に対応できておらず、地域中核病院としての診療体制の強化が求められている。ジンジャ地域中核病院は、入院患者数（22,167人/年）が全国の地域中核病院の中で4番目に多く、北部回廊上に位置する物流の要衝でもあるため、交通事故関連の診断や治療も多い。ソロティ地域中核病院と同様に、基本的な医療機材の不足に加え、X線撮影30-40件/日の想定需要に対して機材の老朽化に起因する稼働率の悪化により2020年の診断件数は2018年の5,759件から2,407件に半減する等、適切な医療サービスの提供に課題が生じている。

我が国の対ウガンダ国別開発協力方針（2017年7月）では生活環境改善（保健・給水）を重点目標に掲げており本計画は同方針に合致する。更に、技術協力「5S-CQI（カイゼン）-TQM（総合品質管理）を通じた患者安全構築プロジェクト」（2021-2026）にて、ウガンダの全土の地域中核病院に対して、患者の安全管理手順の確立、病院の安全レポートシステムの整備等を行い保健医療サービスの質の向上を図る予定であり、技術協力を通じた人材育成と本計画との相乗効果を図っていく。さらに、我が国は「経済社会開発計画」（2020年度）及び「コールド・チェーン整備のための緊急無償資金協力」（2021年度）にて、本計画対象の地域中核病院（RRH）を含め、新型コロナウイルス対策等に資する機材を整備しており、本計画で整備する検査、診断、治療用の医療機材と併せて、新型コロナウイルス対策も含めた当国の保健医療体制の強化を通じたUHCの促進を支援する。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

- (ア) 施設・機材等の内容：【機材】医療機材（X線撮影装置、超音波診断装置、手術台、酸素濃縮器、滅菌ドラム等）
- (イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、機材調達監理。ソフトコンポーネントとして、対象機材に対する運用・臨床技術及び保守管理技術の向上のための指導

② 期待される開発効果

医療機材整備による検査数、手術件数、分娩数の増加（X線検査：2,980→3,800、

超音波診断検査：7,400→9,400、手術件数：4,600→5,900、分娩数：9,000→11,600、いずれの数値も2病院の合計、事業完成3年後を想定。）により、対象地域住民約77万人に対し非感染症疾患の早期診断及び治療体制の強化への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：保健省

他機関との連携・役割分担：特になし。

④ 運営／維持管理体制：保健省の指導監督の下、各地域中核病院が運営・維持管理を行う。対象機材は高度な維持管理を必要としない基本機材及び高度機材は更新機材が大半であり、実施体制・技術面で大きな問題は見られない。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：C
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- 他の援助機関の対応：保健分野では、「保健セクター開発パートナー」や「保健政策諮問委員会」が定期的に開催されており、援助機関間の協調・連携が行われている。米国国際開発庁、世界銀行、イギリス国際開発省及びアフリカ疾病対策予防センター等は感染症対策や母子保健を中心とした事業を展開しており、COVID-19 対応についても支援している。リファラル体制の最上位に位置する5つの国立病院のうち、アフリカ開発銀行はムラゴ国立病院の施設修繕・医療機材供与を行っており、中国はナグル国立病院への医療設備整備を長年実施している。本計画は我が国が長年一貫して支援を継続している地域中核病院への医療機材を整備するものであり、他機関の活動と連携して同国の保健医療分野の改善及びUHCの促進に向けた相乗効果が見込まれる。

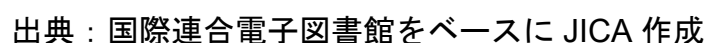
4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

- 対ウガンダ無償資金協力「東部ウガンダ医療施設改善計画」（評価年度2010年）及び「中央ウガンダ医療施設改善計画」（評価年度2015年）の事後評価等では、医療機材を選定する際、対象病院の医師が使用経験のある機材に限定した上で、使用経験の少ない機材に関して研修、指導を実施した結果、整備機材の有効活用及び適切な維持管理につながっていることが確認された。本計画でも、病院側の臨床技術レベルや維持管理体制の現状を踏まえて、整備機材の種類等、保守契約付帯やソフトコンポーネント（機材更新計画策定含む）の内容を検討する。

以 上

[別添資料] 地図

[別添資料] 写真





ソロティ地域中核病院の新生児治療室



ソロティ地域中核病院の産科病棟



ジンジャ地域中核病院の手術室

出典：アフリカ地域新型コロナウイルス感染拡大を受けた保健医療施設・機材にかかる情報収集・確認調査・調査団